

介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ④

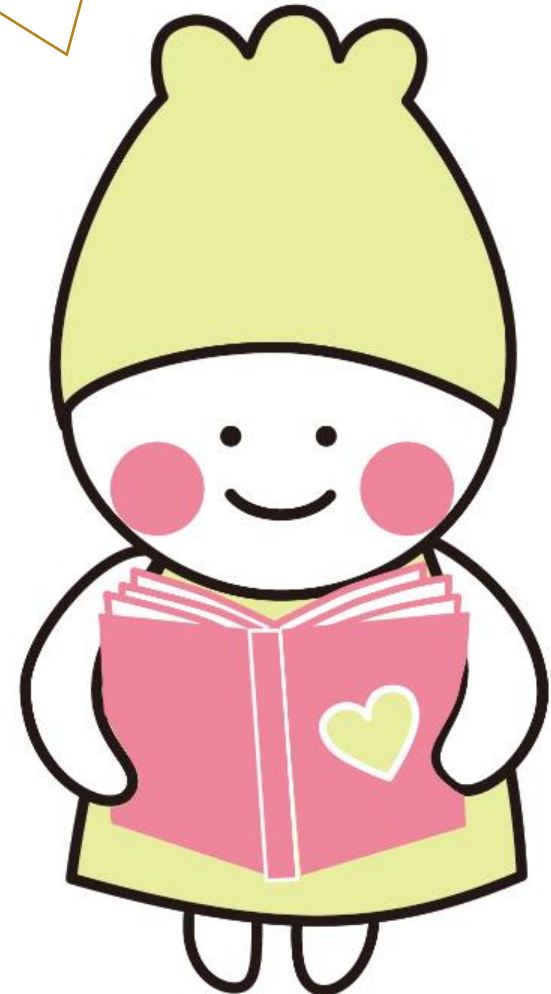
「一緒にゴミの分別が
できるようになってきた」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / ADL /

家事・IADL / QOL / 介護状況

ヘルパーさんとのかかわりが
どんな変化をもたらしたのか、
読んでみるまも♪



スライド全6枚

【事例情報】

○80歳前半 ○女性 ○介護度1

【Before】令和3年2月頃

プラゴミにティッシュペーパーが混じっているのが通常。
近隣のゴミステーションを物色収集、近隣より苦情あり。
ゴミに関して「自分でできる事だから」と抵抗感強く、関わりが難しかった。



【After】令和3年6月上旬

担当ヘルパーの入れ替えを機に、踏み込んだ関りが少しずつ増えていった。

徐々に抵抗感も薄れていき、訪問の都度ゴミの分別ができるようになっていく+訪問看護師+訪問薬剤師との連携が広がり、定期的にゴミ出しができるようになったとともに、**全体的にゴミに対する意識変革**となる。



経過

障害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>認知症の独居、収集癖あり。 人に迷惑をかけたくない、自分でなんでもできるとの思いが強い。 金銭的ゆとりがなく、有料ゴミ袋で捨てたくない。</p>	<p>「(プラゴミに)ティッシュが入っていたらゴミ持って行ってくれないよ」と端的に説明。プラゴミ・燃やせるゴミを一緒に分けてまとめる関りを訪問の都度繰り返し、定着を図った。</p>	<p>「自分でやりたい」思いを基に、ご本人主体で居室内に溜まったゴミを捨て、きれいな環境づくりを目指した。うまく進めば居室以外（ガレージなど）の収集物を把握し蓄積解消につなげる。</p>



事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
近隣苦情を受けケアマネジャーと相談 (令和3年3月)	本人に対しては、かかわりのあるすべての者で「繰り返し伝えていく」との方針を取り、都度「ゴミとか大変でないかい?」と聞いていった。大変だ……と本人の声があったタイミングで、ゴミの分別したり、車庫のゴミ（あると思われるが不明）の確認、分別に関わった。⇒「この人手伝ってくれるんだ」の認識をつけていった。⇒プランに追加、支援の道筋をつける方向性を全体で確認した。
ヘルパーから聞き取り ⇒CMにつなぐを密に	ヘルパーからの提出される活動状況報告を読み、詳細は口頭聞き取り。ゴミの関りで10分程度の時間延長も都度報告してもらった。生活援助3の算定が続くも、ご本人との関わり（見守りの援助＝身体介護）を裏付ける詳細報告を積み重ねた。
サービス内容見直しし、 身体介護の算定へ	8月末更新を前倒し、サービス見直しすることとなる。7月に担当者会議開催し7月より20分拡大身体1生活2へ。

□事例へのコメント□

ヘルパーのみならず、このご利用者にかかわっている関係者と支援の方針を固め、統一・継続してかかわっていくことにより本人の変化につながった事例であるといえます。

特に、いくら周りから苦情があったとしても、関係者が主体になるのではなく、本人が「大変だ…」というタイミングを見計らって適切に支援することにより、本人からの信頼を得るとともに、あくまで本人の「自分でやりたい」という思いを尊重し、生活の主体は本人であることを念頭に置いた関わりがあってこそその本人の意識改革になったといえるでしょう。

【社会福祉協議会 地域福祉部】



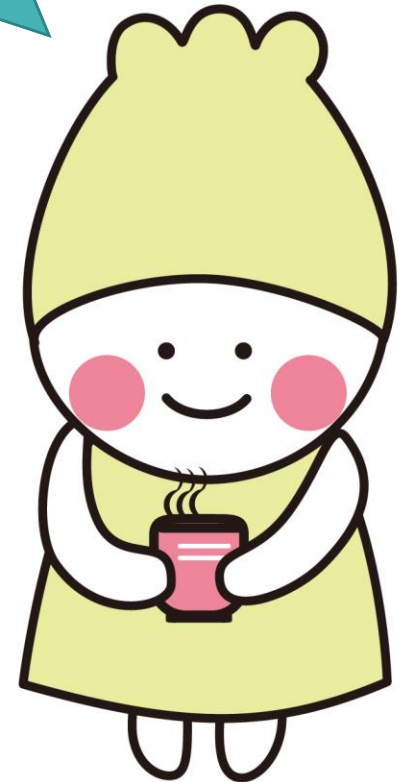
私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して
ほしいまも

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
介護事業部



まもりん